

【目次】

1. アーカイブ No.17

連載「日本労働会館物語」第 14 回 2010.08.26 発行の第 16 号に掲載

2. マックスバリュー西日本労働組合・ユースメンバー 講演と見学 30 名

3. UA ゼンセン総合サービス部門・給食中食部会 15 名

4. UA ゼンセン・大阪ガス労働組合 講演と見学 10 名

5. JAM 東海岐阜青年協 見学 11 名

6. JAM 山陽・兵庫東地協 7 名

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1.アーカイブ No.17

連載「日本労働会館物語」第 14 回 2010.08.26 発行の第 16 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 14 回！

< 惟一館の建設その1 >

1889(明治 22)年 5 月に日本視察結果報告等で一時帰国していたアメリカ・ユニテリアン協会の宣教師アーサー・メイ・ナップは、同年 10 月、日本ミッションの長として再来日します。この時、補佐として宣教師クレイ・マッコレーイ、通訳兼助手としてミードヴィル神学校で学んでいた神田佐一郎、そして福澤諭吉の要請で慶應義塾に赴任する3教授(理財学のドロップアーズ、法学のウィグモア、文学のリスカム)が同行しました。11 月にはミッションの拠点となる日本ユニテリアン協会本部が、東京市麴町区永田町 82 番地に設置されます。

1890 年(明治 23)1 月、英国人宣教師 H・W・ホークスが来日、翌2月に日本ユニテリアン協会本部は麻布区飯倉町 4-4 に移転します。3月には月刊雑誌『ゆにてりあん』が、惟一社(ユニテリアン協会出版部)から創刊されます(惟一社は 1891 年 10 月に解社。『ゆにてりあん』は『宗教』となります)。

日本ユニテリアン協会は 1891(明治 24)年1月に東京市日本橋蛸殻町に講義所を設けます。同 5 月に東京市京橋区加賀町 8 番地に移転し、惟一館と名付けます。なお、書き方は「惟一館」が正しく、「唯一館」ではありません。また、読み方は「ゆいいつかん」です。

同じ5月、アメリカ・ユニテリアン協会からウィリアム・ロレンス宣教師が来日。またこの頃、麴町講義所、神田錦町講義所、日本橋薬研堀教会が設置され、ユニテリアン・ミッションの活動が広がってゆきます。10 月には東京自由神学校(後の先進学院)が設立され、クレイ・マッコレーイが校長に就任します。ミッショ

ンは、「①地域社会や、知識の増進と真の宗教の実践を目的とする教会の組織化、支援を行なう。②書籍やパンフレットの発行など。これは社会的、倫理的かつ宗教的な問題について、合理的考え方を広めること。③組織を代表し、組織の為に働く講演者、執筆者その他の人々に権限を与える資金的援助をすること。④この仕事を支援するため、基金を集めること」などを目的としていました。

陣容が整い、活動が充実してくるに従い、拠点となる本格的な建物が求められるようになります。惟一館の建設です。クレイ・マッコレーイ牧師は『惟一館献堂式の記録』で、「我々の任務を幾つかの部門に分けて組織し、それを共に維持し、互いに助け合うことの出来る建物の建設は、3年前に緊急の要件となりました」と書いていますので、1891(明治24)年頃から惟一館の建設が課題に上がっていたことが分かります。

日本ユニテリアン協会は1893(明治26)年1月、惟一館の建設を正式決定し、翌2月に東京市芝区三田四国町に建設用地を購入します。現在の友愛会館がある場所です。マッコレーイ牧師は前掲書でこの土地について、「土地は建坪120フィート×110フィート、正面は幅100フィート以上で、東京でも大きな道路に面している。近くには日本でも有数の大学があり、学生たちは我々の活動に大きな関心を示している。我々はこのような優れた財産を確保できたことを、大変喜ばしく思う。建物近辺には広大な敷地が広がり、三方は大通りに面している。大火の際は、例外なく北から度々延焼するが、北側に小川と大きな芝公園があるため、我々の建物を延焼から防いでくれる。」と記しています。(連載第14回終り。文責は間宮悠紀雄)

2. マックスバリュー西日本労働組合・ユースメンバー 30名が講演と見学

5月9日(木) マックスバリュー西日本労働組合・ユースメンバー 30名が、講義「日本労働運動の100年余り」をダイジェスト版で受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を40分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。受講後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学した。皆さんとっても熱心に受講しました。

3. UA ゼンセン総合サービス部門・給食中食部会 15名が講演と見学

5月10日(金)、会議の途中進行が早まったとのことで、見学要請がありました。丁度館長が在館しており、急遽、解説講演と見学を実施した。

常設展示「日本労働運動の 100 年余」を解説。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を聴く。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。皆さんとっても熱心に受講し見学をしました。

4. UA ゼンセン・大阪ガス労働組合の 10 名が講演と見学

5 月 17 日(金)、UA ゼンセン・大阪ガス労働組合の 10 名が、講演と見学した。常設展示「日本労働運動の 100 年余」を解説。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を聴く。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。その後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学した。皆さんとっても熱心に受講し見学をしました。

5. JAM 東海岐阜青年協の 11 名が見学

5 月 31 日(金)、JAM 東海岐阜青年協の 11 名が見学。交通事情もあり、大幅に時間短縮。常設展示「日本労働運動の 100 年余」を見学、せっかくの来館も十分な時間がとれず、惜しむ声もあり。またの来館をお待ちしています。

6. JAM 山陽・兵庫東地協 8 名が見学

5 月 31 日(金)、JAM 三洋兵庫東の 7 名が、常設展示「日本労働運動の 100 年余」を見学。安部解説員の言葉に耳を傾け、大変熱心に時間をかけて見学した様子でした。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

惟一館から 129 年、友愛会から 111 年